

ばん だい

令和6年度(2024)

所報 No.59

NATIONAL
BANDAI YOUTH
FRIENDSHIP CENTER



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家

申し込み・お問い合わせ

〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1

TEL:0242-62-2530 FAX:0242-62-2532



国立磐梯青少年交流の家



お待ちしております！

<https://bandai.niye.go.jp/>

国立磐梯青少年交流の家

検索



所長あいさつ

令和6年度 所報「ばんだい」No. 59号の発刊にあたり、
ご挨拶申し上げます。



令和6年度に実施いたしました教育事業等は、おかげさまで成功裏に終わることができました。これも関係諸機関のご協力と講師の先生方をはじめ、ボランティアの皆さんや多くの方々のご支援のおかげと、心から感謝申し上げます。また、それぞれの事業に熱心にご参加をいただいた参加者の皆さんにも重ねてお礼を申し上げます。

近年の急激な社会の変化の中、青少年教育施設の果たす役割の重さをあらためて実感し、職員一同今後とも鋭意取り組んで参ります。

ここに、教育事業等の報告をまとめた所報「ばんだい」No. 59号をお届けします。掲載したもののいくつかでもご活用いただけましたら幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

令和7年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家 所長 小野 保

施設紹介

国立磐梯青少年交流の家について

“山と湖の磐梯”

団体宿泊訓練を通じて健全な青年の育成を図るために、国立磐梯青年の家は国立青年の家の3番目の施設として、昭和41年5月に開所した。平成18年4月からは独立行政法人国立青少年教育振興機構国立磐梯青少年交流の家として新たなスタートをきり、平成28年5月に50周年を迎えた。

当施設は磐梯朝日国立公園の磐梯山麓南面に位置しており、猪苗代湖や裏磐梯の多くの湖沼群など、山と湖と森の豊かな自然に囲まれた青少年教育の拠点として、年間を通じて福島県内はもとより、関東・東北地方を中心に多くの青少年や青少年教育指導者等が自然体験活動やスポーツ・芸術文化活動などの研修で利用している。



～所報59号目次 CONTENTS～

◇所長あいさつ

◇施設紹介

I	令和6年度 国立磐梯青少年交流の家 施設運営・グランドデザイン・教育事業等方針	1
II	令和6年度のあらまし	5
III	令和6年度 教育事業等	
1	令和6年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業実施一覧	8
2	次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業	
(1)	モデル的事業（特色あるプログラム・実践研究事業）「アクティブジオキャンプ」	9
(2)	課題を抱える青少年の支援事業（生活自立支援キャンプ） 「子ども食堂スノーキャンプ2025 in 磐梯山」	10
(3)	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿 「地域探究プログラム」（学校・団体参加型）	11
(4)	社会の要請に応える体験活動等事業「リオン・ドールキッズプロジェクト」	12
(5)	地域ぐるみ事業「スマイルばんせい」	13
3	青少年教育指導者等の養成事業	
(1)	ボランティア養成・研修事業「ばんボラセミナー」	14
(2)	ボランティア研修・自主企画事業「ボランティア自主企画」	15
4	東日本大震災復興支援プロジェクト「第10期福島こども未来塾 第1～7回」	16
5	福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業	
(1)	スマイルばんせい	23
(2)	地域のイベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動	23
(3)	子どもゆめ基金説明会	23
(4)	その他	23
IV	令和6年度 研修支援等	24
V	施設概要	
1	職員組織	25
2	国立磐梯青少年交流の家のあゆみ	26
◇	ご協賛・ご協力いただいた皆さま	29

I 施設運営・グランドデザイン・教育事業等方針

令和6年度 国立磐梯青少年交流の家の施設運営について

独立行政法人国立青少年教育振興機構法

↓ (機構の目的、中期目標管理法、業務の範囲など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構に関する省令

↓ (業務方法書、中期計画、年度計画、業務実績報告、財務諸表など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構業務方法書

↓ (業務の方法についての基本事項を定めたもの)

中期目標【第4期 令和3年度～令和7年度(2021年度～2025年度)】

↓ (独立行政法人国立青少年教育振興機構が達成すべき業務運営に関する目標
文部科学大臣指示)

中期計画

↓ (中期目標を達成するための計画 文部科学大臣認可)

↓

↓

↓

↓

↓

↓

↓

↓

ミッション：青少年教育の振興・健全な青少年の育成
ビジョン：青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する
バリュー：
Curiosity, Change, Challenge, Care, Communication, Collaboration, creativity

↓

↓

令和6年度年度計画

↓ (中期計画を達成するための業務運営に関する計画)

↓

令和6年度経営計画、人事に関する基本方針

予算編成方針、教育事業等方針

↓

令和6年度国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針

国立磐梯青少年交流の家施設運営協議会 年1回

福島「体験の風をおこそう」実行委員会 年2回

国立磐梯青少年交流の家グランドデザイン【長期的な計画・展望】

～2025年

ビジョン【2025年になっていたい姿】

青少年及び青少年教育指導者に対する体系的な研修の実施

(教育テーマ) 健康的な生活習慣のきっかけ作り～(食育)(運動習慣づくり)～

(キャッチコピー) 山と湖の磐梯

ゴール【ビジョン到達を証明する指標】

指標1

利用者のニーズに応じた活動プログラムの確立

指標2

法人ボランティアの組織化

法人ボランティア自主事業が円滑に実施できる体制を整える。

指標3

福島子ども未来応援団を設立

福島子ども未来塾の実施体制を整える。

令和6年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針

1. 基本的な考え方

国立青少年教育振興機構の令和6年度教育事業等方針を踏まえ、国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針を作成し、円滑に業務を遂行する。

2. 青少年教育に関するモデル的事業の推進

実践研究事業及び地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業）として「アクティブ・ジオキャンプ」を実施する。また、関係機関・団体、大学の研究者等と連携し、その成果を報告書等にまとめ、広く青少年教育関係者に発信する。

また、「磐梯地域探究プログラム」を実施し、全国高校生体験活動顕彰制度の地方ステージ及び全国ステージで発表できるよう参加者を指導する。

3. 社会の要請に応える体験活動等事業の実施

社会の要請に応える体験活動の推進のために、体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業として「福島子ども未来塾」、親子を対象とした自然体験などに親しむ機会と場を提供する事業として「スマイルばんせい」、地域の企業と連携して実施する体験活動事業として「リオン・ドール キッズプロジェクト」を実施する。

4. 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の実施

青少年の今日的課題に対応するため、子ども食堂と企画段階から連携し、子ども食堂を利用している子どもを対象に「生活自立支援キャンプ」を実施する。

5. グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

青少年の異文化理解の増進を図るため、関係機関・団体と連携し、SDGsを踏まえた外国語を使った国際交流プログラムの開発事業として「イングリッシュキャンプ」を実施する。

6. 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業の実施

国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成する「ばんボラセミナー」を開催する。また、ボランティアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ボランティアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に「ボランティア自主企画」を実施する。

7. 青少年、青少年教育指導者等を対象とする研修に対する支援

利用状況の分析や施設利用に関するアンケート調査の結果を踏まえ、活動プログラムを見直すとともに利用者サービスを向上させ、利用者の増加を図る。

安全対策マニュアルの点検、安全研修の実施、活動プログラム実施中の傷病、事故等の分析を行う。また、利用者が安全安心に利用できる施設を目指し、全職員が施設整備に日々努めるとともに安全点検日を適切に設定し、教材教具、活動備品、活動場所等の確実な点検・改善を通じて、衛生面も含めて安全安心な教育環境を確保する。

II 令和6年度のあらまし

1 教育事業（詳細はP. 9～23参照）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要とされる体験活動（自然体験、社会体験、生活体験等）の適切な場と機会提供の場とするために教育事業を実施してきた。

「次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業」として、モデル的事業（特色あるプログラム事業・実践研究事業）の長期自然体験『アクティブ・ジオキャンプ 2024』（6泊7日）をはじめ、「課題を抱える青少年の支援事業」として『生活自立支援キャンプ』、『地域ぐるみ事業』として『リオン・ドールキッズプロジェクト』『スマイルばんせい』、「青少年教育に関するモデル的事業」として、学校・団体参加型『地域探究プログラム』、『ボランティア養成・研修事業』として、『ばんボラセミナー』、『ボランティア自主企画（Next Stage Challenge ～中学生への第一歩～）』、『東日本大震災復興支援プロジェクト』として、『第10期福島こども未来塾』①～⑦を実施した。

「社会の要請に応える体験活動等事業」として『イングリッシュキャンプ』を計画していたが、国立青少年教育振興機構教育事業部の事業方針の改訂と事業の見直しにより中止となった。それ以外については予定どおり各事業を実施することができ、多くの青少年に体験の機会を提供することができた。



アクティブ・ジオキャンプ 2024

2 研修支援等（詳細はP. 24参照）

令和6年度は宿泊利用者数 43,808 人、日帰り利用者数 4,348 人となった。これは年度当初に設定した目標値に対して、宿泊利用者数が 110%、日帰り利用者数が 154%の達成率となる。

今年度は磐梯山登山プログラムの八方台登山口往復コースに加え、猪苗代スキー場のリフトを活用したコースを新たに設定した。また、赤べこの絵付け体験では筆を使った絵付け体験に加え、ポスターカラーマーカーを使った絵付け体験ができるようにした。実際に絵付け体験をした団体からは、準備から片付けまで円滑に活動することができるかと好評を得られた。事前打合せについては直接来所して相談する方法に加え、ビデオチャットツールを活用したオンライン打合せの方法を設定した。

また、利用者獲得に向けた広報活動を実施した。首都圏の学校団体の令和7・8年度の新規利用者獲得へ向けて、神奈川県川崎市教育委員会への訪問型広報を実施した。

3 地域との連携

(1) 運営協議会の開催

令和6年度 国立磐梯青少年交流の家運営協議会名簿（敬称略）

No.	氏名	所属職名
1	増子 惠二（委員長）	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会長
2	小林 雄	福島県教育庁社会教育課 課長
3	中野 充	学校法人新潟青陵大学 福祉心理子ども学部臨床心理学科 准教授
4	角田 守良	福島民報社 編集局長
5	滝田 勝彦	福島県立猪苗代高等学校 校長
6	小川 信二	株式会社シグマ 経営企画本部 会津総務部長

令和6年度は「運営協議会」を12月にオンライン会議で実施した。国立磐梯青少年交流の家ランドデザインや令和6年度の教育事業等方針について説明し、令和6年度の施設利用状況、教育事業、施設整備状況広報実績等について報告した。

その後、令和7年度施設利用申込状況、教育事業等計画、施設整備計画、広報計画について協議した。

委員一人一人のそれぞれの立場や新たな視点から意見を伺うことにより、当交流の家での取り組みや計画を見直す機会となり、有意義な時間を過ごすことができた。

今後も第4期中期目標・中期計画を踏まえた取り組みに対して、いただいた貴重なご意見を反映させながら次年度の運営に生かしていく。



運営協議会（R6.12.11）

(2) 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会

地域の資源を活かした体験活動の充実の重要性について普及啓発することで、地域の教育を高めるとともに、福島県内で暮らす子どもたちに様々な体験の場と機会を提供して、健全な青少年の成長を促す礎を築くことを目的として、各種団体と連携して特色を生かした体験活動の提供及び普及啓発活動を行った。今年度から福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会を「国立那須甲子青少年自然の家」と共同で立ち上げて、「体験の風をおこそう」普及啓発活動を次のとおり実施してきた。

①「スマイルばんせい」の開催（詳細P.13参照）

②「学びいなまつり」他イベントブース出店

③「猪苗代湖の水質向上」のため（猪苗代湖の自然を守る会）の連携（詳細P.23参照）



スマイルばんせい
（R6.9.29）

令和6年度 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会名簿（敬称略）

No.	氏名	所属職名
1	宇南山 忠明	猪苗代町教育委員会 教育長
2	高橋 敦司	福島民友新聞社 若松支社長
3	佐瀬 誠一	株式会社リオン・ドールコーポレーション 常務執行役員・管理部門管掌
4	小野 保（実行委員長）	国立磐梯青少年交流の家 所長

(3) 教育事業における実行委員会

- ・「アクティブ・ジオキャンプ」企画評価委員会（2回）

企画の段階から運営に至るまで連携、実施をすることにより、大学教授等の専門家の指導や協力を得ることができた。事後検討会も実施し、事業の効果について話し合った。

(4) 各高等学校・大学等との連携（ボランティア活動の充実）

各種教育事業を実施するために、各高等学校（会津学鳳高等学校・須賀川桐陽高等学校・田村高等学校・千葉県八千代松陰高等学校）及び各大学（福島大学・新潟清陵大学・新潟医療福祉大学・慶応義塾大学・帝京大学・郡山女子大学）、職業能力開発短期大学校（福島県立テクノアカデミー郡山）の学生に参画をしていただいた。

(5) 青少年施設連携

① 東北地区青少年教育施設運営研究協議会

東北地区青少年教育施設の関係者が一堂に会し、各施設における日頃の実践例をもとに研究協議を行い、地区相互の連携を深めることを趣旨としている。今年度は宮城県松島自然の家（宮城県東松島市）が事務局を務め、エスポールみやぎ（宮城県仙台市）を会場として、各施設の運営や施設設備について情報を交換しながら連携を深めた。

② 東北連携会議

国立青少年教育施設東北地区4施設（岩手山・花山・磐梯・那須甲子）の連携を強化し、各施設における業務の活性化を趣旨としている。今年度は花山青少年自然の家が事務局であったが、諸事情により開催は見合わせとなった。

③ 福島県自然の家会議

福島県郡山自然の家を中心に、会津自然の家、いわき海浜自然の家、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家と連携会議を行ってきた。各施設の利用状況や事業報告、課題や対策についての協議や情報交換が主な活動であった。

4 法人ボランティア表彰

当交流の家を中心にボランティア活動を積極的に行った2名が令和6年度法人ボランティア表彰を受け、表彰状を授与した。

【令和6年度法人ボランティア表彰者】

- ・帝京大学4年 横田 大河
- ・会津学鳳高等学校3年 曲山 真菜花

Ⅲ 令和6年度 教育事業等

1 令和6年度 国立磐梯青少年交流の家 教育事業等実施一覧

No.	事業名	趣旨	内容	期間	対象	参加人数
1	アクティブ・ジオキャンプ 【実践研究事業・特色化事業】	自然体験活動や宿泊体験を通して、青少年の調理・食生活に対する自信、食に対する感謝の気持ちや自己肯定感を高めるとともに、日常における運動習慣のきっかけづくりになることを目的に実施する。	・野外炊飯 ・ハイキング ・登山 ・シャワークライミング	7/27(土)～28(日) 8/15(木)～21(水)	小学5年生～ 中学3年生	16名
2	生活自立支援キャンプ 【生活自立支援事業】	体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育むことを目的に実施する。	・雪の活動 ・レクリエーション ・ニュースポーツ	1/11(土)～13(月)	松戸市子ども食堂(小学生～中学生)	32名
3	磐梯地域探究プログラム 【地域探究プログラム事業】	体験活動を通して、高校生の物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を育成することを目的に実施する。	・講義「震災講話」 ・ワークショップ「HUG指導」 ・フィールドワーク「磐梯山登山」	・4/19(金) ・5/10(金) ・5/30(木) ・6/6(木)～7(金) ・7/5(金) ・9/5(木) ・9/13(金) ・1/25(土)	福島県立猪苗代高等学校生徒	57名
4	ばんボラセミナー 【ボランティア養成・研修事業】	国立青少年教育機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成することを目的に実施する。	・講義 ・演習 ・実習	5/25(土)～26(日)	ボランティア活動に興味のある大学生等	33名
5	ボランティア自主企画 【ボランティア養成・研修事業】	ボランティアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ボランティアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に実施する。	・ボランティアが企画する体験活動等	10/13(日)～14(月)	国立磐梯青少年交流の家で活動するボランティア	11名
6	福島子ども未来塾	体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え行動できる青少年を育成することを目的に実施する。	・東日本大震災を知る活動 ・福島県の自然、文化、歴史を知る活動 ・福島県の食を考える活動 ・スポーツ体験 ・ダンスワークショップ ・留学体験	7/6(土)～7/7(日) 7/20(土)～7/21(日) 8/2(金)～8/3(土) 8/24(土)～8/25(日) 9/7(土)～9/8(日) 9/22(日)～9/23(月) 10/5(土)～10/6(日)	小学5年生～ 中学2年生	40名
7	スマイルばんせい 【地域ぐるみ事業】	家族で体験活動を楽しむことを通して、親子でのコミュニケーションを促し、家庭教育の充実を図ることを目的に実施する。	・創作活動 ・自然体験活動 ・文化体験	9/29(日)	小学1・2年生を含む家族	49家族 175名
8	リオン・ドールキッズプロジェクト 【企業連携事業】	自然体験を通して、身体を動かす楽しさを感じたり、家族のコミュニケーションを促したりすることを目的に実施する。	・自然体験	1/18(土)	小学生を含む家族	5家族 13名

2 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

(1) モデル的事業（特色あるプログラム・実践研究事業）「アクティブ・ジオキャンプ」

1 趣旨

自然体験活動や宿泊体験を通して、青少年の調理・食生活に対する自信、食に対する感謝の気持ちや自己肯定感を高めるとともに、日常における運動習慣のきっかけづくりになることを目的に実施する。

2 期日

令和6年7月27日（土）～令和6年7月28日（日） プレキャンプ

令和6年8月15日（木）～令和6年8月21日（水） ジオキャンプ

3 会場

国立磐梯青少年交流の家

松原キャンプ場

天鏡台、五色沼、小野川不動滝、猪苗代湖、桧原湖、磐梯山

4 参加者

16名（小学生11名、中学生5名）

5 主な活動内容

(1) 食育のメスティン調理

毎日3食のうち1食を野外炊飯にしてメスティンによる調理を行った。献立を考える、必要な材料を買出す、調理する、食べる、片づけるという「食」の一連の流れを体験した。

(2) 運動習慣づくりのための活動プログラム

運動習慣を身につけるきっかけづくりのために、天鏡台ハイキングや五色沼ハイキング、シャワークライミング、猪苗代湖畔ウォーク、カヌー・湖水浴、磐梯山登山③コースを行った。少しずつ運動量が上がっていくようにプログラムを組んだ。また、歩数計を用いることで、その日の歩数や消費カロリーなど自分の運動について調べられるようにした。

6 事業の成果と課題

(1) 成果（アンケート結果より）

- ・今までよりも食材の産地や値段を気にしたり、買い物に出かけたり、片づけたりする機会が増えた参加者が多かった。
- ・食べられる野菜が増えたり、いろいろな種類の食材に挑戦したりするなど、ジオキャンプを通じて新たにできるようになった参加者が増えた。
- ・普段から運動する量が増えたり、意識して外に出て活動するようになったりと、体を動かすことが日常に溶けこんでいる参加者が増えた。
- ・ジオキャンプで渡した歩数計を使い運動量を把握することで、自分の運動に対する関心が高まった参加者が多い。

(2) 課題

- ・食の最初に必要なバランスの良い「献立を考える」部分に未到達な参加者が多いので、予算や計画の可能な範囲でプログラムに入れられるとよい。
- ・参加者のニーズを把握し、これまで実施したキャンプと有効度を比較したうえで、期間やプログラム等について検討する必要がある。



(2) 課題を抱える青少年の支援事業（生活自立支援キャンプ）

「子ども食堂スノーキャンプ 2025 in 磐梯山」

1 趣旨

体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育むことを目的に実施する。

2 期日

令和7年1月11日（土）～令和7年1月13日（月）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家
五色沼

4 参加者

32名（小学生19名、中学生13名）



5 主な活動内容

(1) 五色沼スノーシューハイキング

研修指導員のもと、五色沼でスノーシューハイキングを行った。全員で裏磐梯物産館を出発し、るり沼まで歩いた。そこから先に進むチームと折り返すチームとに分かれた。先に進むチームは弁天沼まで歩き、積雪も多かったため、本来は水があるところまでスノーシューで進むことができた。距離別コースを設定し、参加者が自主的に選択できるようにしたことで、参加者はそれぞれのレベルに応じた達成感を味わうことができた。

(2) 雪灯ろう作り・たき火・マシュマロ焼き

かまくら型や雪だるま型など、それぞれが創意工夫して雪灯ろうを作った。夜にはその雪灯ろうにろうそくをともし、幻想的な雰囲気の中で、たき火をしてマシュマロ焼きを実施した。

(3) 自主性を大切にした活動（雪遊び、体育館でのスポーツ等）

前日のミーティングで場所と道具、可能な活動の中から、各自がどのような活動をして過ごしたいか話し合い、参加者の自主性を大切にした活動を行った。雪遊びを選んだ参加者は、広場に大きな穴を掘ったり、雪玉を作って雪合戦をしたり、そりやスノーチューブを使って斜面をすべったりした。室内での活動を選んだ参加者は、体育館でバスケットボールや卓球、ドッジボールなどを行った。

6 事業の成果と課題

(1) 成果（アンケートから）

- ・「千葉は雪があまり降らないから、福島に来て雪で遊ぶことができて楽しかった。」「雪でかまくらを作り、他にもいろいろな活動ができて、貴重な経験になった。」という感想から、参加者は普段できない雪上活動を存分に楽しむことができたことが伺える。
- ・「初対面でも優しく接してくれた。」という感想から、参加者どうしが相手を思いやる気持ちをもって活動することができたと言える。

(2) 課題

- ・「雪遊びの時間がたりなかった。」という感想があったので、アンケート等から参加者のニーズを読み取り、どのような活動を行うかを決めていく必要がある。
- ・参加者の特性等について連携機関と情報を共有しながら、適切な配慮のもとで活動が展開できるようにしていくと、さらに参加者にとって充実した事業になると考えられる。

(3) 全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿「地域探究プログラム」

1 趣旨

体験活動を通して、高校生の物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年4月19日(金)～令和7年1月25日(土)(計9日)

3 会場

国立磐梯青少年交流の家
福島県立猪苗代高等学校
磐梯山
五色沼

4 参加者

55名(高校生55名)

5 主な活動内容

(1) 五色沼散策(フィールドワーク)

五色沼の成り立ちや植生などについて学びながら五色沼を散策した。

(2) 震災講話・クロスロードゲーム(講義)

避難所運営時に実際に起きている課題や現状について説明を聞いた。また、避難所に届いた食料の配り方や避難所で生活する上でのルールづくりなど、実際に起きた課題を題材に解決策をグループで考えて発表する活動に取り組んだ。

(3) HUG見学・実践(演習)

参加者が実際に通っている高校の図面を用いたHUG(避難所運営ゲーム)に取り組んだ。始めに避難所運営経験のある講師の自衛隊職員によるHUGを見学した。見学後には運営についてグループで感じたことや困ったことなどを自衛隊職員に質問することで、避難所運営について考えを深めた。次にHUGを行った。見学や質問で得たことを生かしてゲームに取り組んだ。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

- ・オリエンテーション合宿を全学年で実施したことで、上級生がリーダーシップを発揮し、下級生は自身の役割を果たそうとするなど、主体的に活動に取り組む姿が見られた。
- ・猪苗代町が抱える課題に対して積極的に話し合い、意見を出し合うなど、生徒一人ひとりが真摯に課題に向き合い、解決しようとする姿が見られた。

(2) 課題

- ・活動を通して一定の効果は得られているが、内容がほぼ昨年と同様であったため、全学年の生徒の意欲や主体性の向上を図ったり、目的を達成できたりするような内容の工夫について検討する必要がある。

(4) 社会の要請に応える体験活動等事業「リオン・ドールキッズプロジェクト」

1 趣旨

自然体験を通して、身体を動かす楽しさを感じたり、家族のコミュニケーションを促したりすることを目的として実施する。

2 期日

令和7年1月18日（土）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

13名5家族（大人5名、小学生5名、未就学児3名）

5 主な活動内容

(1) 野外炊飯

活動の前半は、当施設ピロティでおにぎり作り及び豚汁作りを行った。参加者は施設食堂の炊き渡しご飯と共催のスーパーマーケットから提供された具材を使っておにぎりを作ったり、かまどで焼きおにぎりを作ったりした。豚汁は水煮の野菜を使うことで、包丁を使わずに調理を進めた。参加者からは「水煮などを利用したため簡単に調理することができ、子供と遊ぶ時間を作ることができた。」という感想が寄せられた。また、かまどの火起こし体験では、薪や新聞紙を事前にかまどに準備しておくことで、小さな子供たちも安全に活動することができた。



(2) 雪遊び

活動の後半はグラウンドでスノーラフティング体験をしたり、ふれあい広場でそり遊びとスノーチューブを行ったりした。スノーラフティングについては、参加者全員が初めて体験する活動であるため、スピードを調整しながら安全に配慮して活動を進めた。そり遊びとスノーチューブについては、施設職員とボランティアがスタート地点及びゴール地点に立つなど安全のため連携して活動した。参加者からは「なかなかできないことができて楽しく過ごせた。スキー場より安全に活動できた。」といった感想が寄せられた。



6 成果と課題

(1) 成果

本事業は地元のスーパーマーケットを運営する企業と共同運営することによって、広く県内各地に広報することができた。また、野外炊飯は企業からの材料提供をもとに行うことで受益者負担を軽減することができ、家族で参加しやすい費用で実施することができた。

(2) 課題

施設側の担当と企業側の担当との連絡は電話やメールで行うことが多く、検討事項の決定にかなりの時間を要した。対面での打ち合わせの際に、できる限り事前に確認すべき事項を共有しておき詳細な打ち合わせができるようにすることが必要である。

(5) 地域ぐるみ事業「スマイルばんせい」

1 趣旨

家族で体験活動を楽しむことを通して親子でのコミュニケーション促し、家庭教育の充実を図ることを目的に実施する。

2 期日

令和6年9月29日(日)

3 会場

国立磐梯青少年交流の家(福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1)

4 参加者

49家族 175名(大人20名、小学生69名、未就学児24名)

5 活動内容

福島県内の小学1～2年生を含む家族を対象に、たき火体験や金魚すくい、ばんせい探偵団、赤べこ絵付け体験、書道体験、ボルダリング、テント設営体験、ニュースポーツの8つの体験ブースを設置した。書道体験は講師を招聘し、15mの書道用紙に大筆を使って文字を書く活動を行った。その他には磐梯青少年交流の家にある設備や備品を使ったたき火体験、赤べこ絵付け体験、ボルダリング、テント設営体験、ニュースポーツのブースを設置して、それぞれの体験ブースを自由に移動しながら楽しむことができた。

6 成果と課題

(1) 成果

書道体験ブースでは、大筆を使ってパフォーマンス用の大きな書道用紙に文字を書いたり、書家の迫力あるパフォーマンスを見たりしたことで、「普段できない貴重な体験となった。」「書道パフォーマンスは迫力があり心に残った。」などの感想があり、親子で一緒に楽しんで満足してもらうことができた。

他には「たき火体験では子どもと体験でき、キャンプに行きたくなった。最初から教えるのではなく、自分で考えて活動させてくれるのが楽しかった。」「ばんせい探偵団では適度な難易度があり、子どもたちが楽しめた。施設の中を散策するきっかけになった。」「娘が習字に興味をもった。」などの感想を得た。

これらのことから、それぞれの体験活動が親子でのコミュニケーションの機会を促す契機となったり、家庭教育につながるきっかけを作ったりすることができた。また、8ブースを設置したことで各ブースで体験する人数が分散され、参加者が一つ一つの体験活動に十分な時間を確保することができた。



(2) 課題

8つのブースをそれぞれ本館、キャンプ場、ふれあい広場に分けて配置したが、各ブース間の移動に時間を要してしまった。ブースの場所を本館及びふれあい広場等にコンパクトにまとめることで、参加者の移動距離を少なくしていくことが必要である。

書道パフォーマンス体験では午後の部の参加者が少なかった。幼児がいる家族にとって、遅い時間帯は子どもたちが疲れて帰宅してしまうことが要因として考えられる。書道の体験時間を午前にとまとめることで、参加しやすい環境を整えることが必要である。

3 青少年教育指導者等の養成事業

(1) ボランティア養成・研修事業「ばんボラセミナー」

1 趣旨

国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年5月25日(土)～26日(日)

3 会場

国立磐梯青少年交流の家(福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原7136-1)

4 参加者

33名(高校生9名、短期大学生5名、大学生19名)

5 主な活動内容

(1) 青少年教育の理解(講義)

常磐大学の松橋義樹氏を講師にお招きし、青少年教育の発達段階に応じた体験活動の効果や意義について講義をいただいた。参加者からは「ねらいを考えて参加者に対する接し方を考える機会になった。」「ボランティアについて改めて考える機会になった。」といった感想が寄せられた。



(2) 青少年教育施設におけるボランティア活動(講義)

磐梯青少年交流の家のボランティア活動内容について、先輩ボランティアの進行のもと、参加者が話を聞く時間を設定した。参加者からは「具体的な活動内容について知ることができてモチベーションがととも上がった。」等の感想が寄せられた。

(3) ボランティア活動の技術(演習)

演習では野外炊飯倉庫内の用具の配置を見たり、かまどを使って薪に火を付ける際のポイントや安全上の留意点等について学んだりした後、野外炊飯棟でカレーライス作りを行った。参加者からは「いろいろな役割があることが分かった。今後は安全管理に配慮しながら活動したい。」などの感想が寄せられた。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

- アンケートの記述にあったように、先輩ボランティアからボランティア活動についての体験談や活動を通して学んだことを聞くことで、参加者はボランティア活動についての具体的なイメージをもち、今後のボランティア活動への意欲を高めることができた。
- アイスブレイクや野外炊飯等の演習で参加者同士が一緒に活動する時間を十分に確保する構成にしたため、初めて会った参加者同士がスモールステップでコミュニケーションをとることができた。



(2) 課題

- 参加者のアンケートに「決まったメンバーでのディスカッションが多く、話し合いの流れが決まってしまって少し飽きてしまった。」という感想があった。意見交流のさせ方などにバリエーションを持たせるなどして、参加者の意欲を持続できる工夫をしていきたい。

(2) ボランティア研修・自主企画事業「ボランティア自主企画（Next Stage Challenge ～中学生への第一歩～）」

1 趣旨

国立磐梯青少年交流の家で活躍する法人ボランティアが主体となって教育事業を行うことにより、青少年教育ボランティアとしての自覚や自主性を育むことを目的とする。

2 期日

令和6年5月25日～11月5日（火）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

11名（自主企画担当ボランティア6名、事業ボランティア5名）

5 主な活動内容

(1) ボランティア自主企画 立案（自主企画担当ボランティア：大学生1名、短大生2名）

学生が教育事業の企画を行うにあたり、まず当交流の家の企画指導専門職による事業の企画方法についての講義を受け、ねらいの立て方やプログラムの選定方法等を学んだ。その上で、事業に参加した子供たちがどのような姿になってほしいのか予想像を考えさせ、そのためにどのようなプログラムが必要か検討を行った。協議の結果、10月14日に「Next Stage Challenge ～中学生への第一歩～」を開催することを決定した。

(2) ボランティア自主企画 プログラムの検討（自主企画担当ボランティア：大学生4名、短大生2名）

「Next Stage Challenge ～中学生への第一歩～」のプログラム内容をZOOM会議システムで話し合った。中学校への進級を控えた小学校高学年の子供たちに成功体験をさせて自信をもたせることをねらいとし、自然体験活動、野外炊飯、ニュースポーツ等にチャレンジさせることにした。その後、プログラムの進行表や広報物の作成の役割分担について確認した。

(3) ボランティア自主企画 実地踏査（自主企画担当ボランティア：大学生2名）

「Next Stage Challenge ～中学生への第一歩～」で行うプログラムを、自主企画担当ボランティアで実際に行った。野外炊飯を行う中で刃物の取り扱いや火を起こす際の注意点、調理手順について確認した。また、自然体験活動とニュースポーツでは、内容やルールについて調整した。それぞれの活動内容がねらいに則したものになっているか検討し、参加者に分かりやすく説明するために、話す内容と順番等について確認した。



(4) ボランティア自主企画 当日（自主企画担当ボランティア：大学生4名、短大生2名）（当日ボランティア：大学生4名、高校生1名）（自主企画事業参加者：小学校5年生7名、小学校6年生7名）

中学進学を控えた高学年の子供たちが自然体験ウォークラリーや野外炊飯、ニュースポーツといった新しい経験を通して、「できるようになった」ことを実感させるとともに、自信をもって何事にも挑戦しようとする心情を育むというねらいのもと、日帰りの事業を行った。ボランティアのサポートを受けながら、5種目の自然体験活動、かまどでのパエリア作り、ボッチャ、ゴールボールを参加者同士で力を合わせて行った。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

実施後のアンケートには「友達も増えたし、料理もできた。」「初めて経験することが多くて楽しかった。」「家で料理をしなかったけれど、作り方を覚えたので挑戦してみたい。」といった成功体験や新しいことに挑戦しようとする意欲についての感想が多いことから、自主企画担当ボランティアの設定したねらいを達成することができたと考えられる。

また、他施設のボランティアや経験年数の異なるボランティア同士で交流を深め、子供たちへの声のかけ方や関わり方についてのスキルアップにつながった。

(2) 課題

当日協力できるボランティアの応募が想定よりも少なかったため、他の教育事業にボランティアが来た際に参加を促したり、開催日を夏休み中に設定したりして、参加しやすい環境づくりが必要だと考えられる。

4 東日本大震災復興支援プロジェクト

「第10期福島こども未来塾」第1回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年7月6日（土）～7日（日）

3 会場

福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島（福島県田村郡三春町深作 10-2）

福島県立博物館（福島県会津若松市城東町 1-25）

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

38名（小学生30名、中学生8名）

5 主な活動内容

(1) オープニング、コミュタン福島での東日本大震災を考える活動

オープニングにおいて、過去の活動の様子や今年度の活動の概要がわかる動画の視聴、理事長のあいさつや職員による説明によって、これからの未来塾での活動に見通しをもつことができた。コミュタン福島の見学や放射線測定実験では、東日本大震災や放射線の被害について詳しく学ぶことができた。参加者からは「福島県の現状や県民の努力が分かった。」「今でも地元に戻れない人がいるのだと知った。」「放射線についてもっと詳しく知りたいと思った。」等の声が聞かれた。



(2) アイスブレイク

バースデーチェーン等のレクリエーションを通して、初めて出会う仲間の名前を覚え、交流を深めることができた。参加者からは「未来塾での友達ができた。」「はじめは緊張したけれど、新しい友達と仲良くすることができた。」等の声が聞かれた。



(3) 福島県立博物館での防災・減災を考える活動

東日本大震災の被害や当時の避難所の様子について知るだけでなく、今後、実際に災害が発生した場合にはどのような行動をとったらよいか、避難所で起こるだろう課題をどう解決したらよいか、家庭ではどのような備えが必要かなど、防災・減災について班ごとに考えることができた。参加者からは「家の中でどこか危ないところはないか確かめようと思う。」「ローリングストックはすぐにできそうなので、やってみよう。」等の声が聞かれた。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

- 「復興に向けて県民がたくさん努力をし、防災のための行動をしているところが福島県のよさだと思う。」「災害が起きたらボランティア活動してみたい。」「災害時に人任せにしないで、どう行動するかを考えられた。」といったアンケートの感想から、震災の被害について理解を深めただけでなく、今後もしもの時に自分たちがどのような行動をとったらよいか考えを深めた参加者が多かった。

(2) 課題

- 参加者の様子について把握することができたので、今後の未来塾の活動では班編成や参加者への関わり方を工夫して、より一層未来塾の目的にせまれるようにしたい。

「第10期福島こども未来塾」第2回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年7月20日（土）～21日（日）

3 会場

三島町交流センター山びこ（福島県大沼郡三島町西方諏訪ノ上 418）
磐梯山噴火記念館（福島県耶麻郡北塩原村桧原剣ヶ峯 1093-36）
国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

38名（小学生30名、中学生8名）

5 主な活動内容

（1）三島町交流センター山びこでの伝統工芸を学ぶ活動

三島町生活工芸館職員の説明を聞いて、山ブドウやマタタビ、ヒロロなどを素材とした編み組細工が積雪期の手仕事として伝承されてきたことを学ぶことができた。また、指導員の方に教えていただいて山ブドウストラップづくりをし、体験を通して伝統工芸について学びを深めることができた。参加者からは「伝統工芸品を作っている人が今でも100人以上いることが分かった。」「これからいろいろな伝統文化を受け継いでいきたい。」等の声が聞かれた。



（2）能楽体験を通して伝統文化を学ぶ活動

会津能楽会の方から歴史について学んだ後、実際に楽器（道具）に触れて演奏をしたり、面をつけたりする体験を行った。体験を通して能楽の楽器の特徴や、すり足で動く必要性について学ぶことができた。参加者からは「歩き方や謡い方の特徴を知ることができた。」「大鼓（おおつづみ）のほうが高い音が出るとは思わなかった。」「能管（笛）もやってみたい。」等の声が聞かれた。



（3）磐梯山噴火記念館、五色沼探勝路での自然について学ぶ活動

福島県の地域ごとの自然の特徴について磐梯山噴火記念館の館長から説明を聞いたり、磐梯山の噴火の再現実験を見たりして、どのようにして現在の自然環境が生まれたのかを学ぶことができた。その後は研修指導員の説明を聞きながら五色沼探勝路ハイキングを行い、磐梯山の影響で五色沼ができたことやそれぞれの沼の水の色の違い、様々な植物が息づいていることなどを学ぶことができた。参加者からは「噴火は怖いですが、噴火によってできた自然の美しさに感動した。」「山登りをするなどもっと自然に触れたい。」等の声が聞かれた。



6 事業の成果と課題

（1）成果

- ・「福島県は自然が多く、文化を大切にして歴史をつないできたことを学ぶことができた。」「福島県の伝統文化を未来へとつないでいきたいと思った。」「福島県の文化や自然をたくさんの人に伝えていきたい。」といったアンケートの感想から、参加者は福島県のよさを見つめ直し、今後それらを守ったり、発信したりしていきたいという思いを強くすることができたと考えられる。

（2）課題

- ・アンケートの感想を見ると新しい学びや発見、気づき、興味をどのぐらいもてたかという項目の伸びが小さかったので、講師と参加者の会話が深まるように関わり方を工夫することで、関心を高めることができるように工夫していきたい。

「第10期福島子ども未来塾」第3回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年8月2日（金）～3日（土）

3 会場

いわき市漁業協同組合（福島県いわき市中央台飯野 4-3-1 水産会館 2F）
宇川ブルーベリー園（福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和五十軒 3358）
国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

1日目：38名（小学生30名、中学生8名） 2日目：35名（小学生27名、中学生8名）

5 主な活動内容

(1) いわき市漁業協同組合での福島県の水産業について考える活動

経済産業省資源エネルギー庁の職員を講師に招き、ALPS処理水放出の現状や水産業への影響、今後の課題等について講話をいただいたり、班ごとに考えたりする活動を行った。参加者からは「ALPS処理水の安全性をいろいろな方法で確かめて世に知らせていることが分かった。」「燃料デブリはどのようにして取り出すのか知りたくなった。」「福島の魚は放射性物質が入っていて危険だと思われているけれど、安全だということが分かった。」等の声が聞かれ、処理水を取り巻く現状や今後の課題に関心をもつことができたことが伺える。



(2) いわき市沼ノ内漁港での水産業について考える活動

ホッキ貝の殻むき体験、魚の重さを当てる入札体験、ヒラメの解体の見学を行った。参加者からは「漁港に行って、今まで以上に命を感じたので、これからはもっと感謝して食べたい。」「職人さんがさばく様子を見て、自分もこんな風にやってみたいと思った。」「もっといろいろな人に福島県の魚を食べてほしいと思った。」等の声が聞かれた。



(3) 宇川ブルーベリー園での福島県の農業を考える活動

ブルーベリーの摘み取りやジャムづくり体験を行った。雪の多い地域ならではの栽培の工夫や、農薬を使わずに栽培するための苦労についてお話をいただき、農家の方の思いを知ることができた。また、新鮮な野菜を使ってピザを作る体験を行った。参加者からは「自分たちで作ったジャムやピザはとてもおいしく、地元の食についてよく知り、興味をもつことができた。」「食料への感謝の気持ちを込めてピザを作ることができた。」等の声が聞かれた。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

- ・「これからは安心して福島の食べ物を食べたい。」「福島の魚を食べたくないという人はまだいる。そういう人たちにおいしい福島の魚を食べてもらえるようにアピールしたい。」といったアンケートの感想から、福島の食への興味・関心が広がったことが伺える。

(2) 課題

- ・実施後アンケートを分析すると、全体として「将来の夢や大きくなったらチャレンジしたいことについて考えられたか」という項目については低い傾向にある。活動を通して考えたり感じたりしたことが自身を見つめ直すきっかけとなるよう、意図的に働きかけていきたい。

「第10期福島こども未来塾」第4回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年8月24日（土）～25日（日）

3 会場

郡山ユラックス熱海（福島県郡山市熱海町字玉川反田 148-2）

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

34名（小学生28名、中学生6名）

5 主な活動内容

（1）UNITED SPORTS FOUNDATIONの4つのクリニック（種目）を通して新しいことにチャレンジする活動

①「走り方教室」では走る時の姿勢や接地時間を短くするための工夫について学んだ。参加者からは「前よりも速く走れるようになった気がする。」

「2日目に実施したリレーに生かすことができた。」等の声が聞かれた。

②「車いすラグビー」では車いすを動かしながらボールをパスしたり、チームに分かれてゲームを楽しんだりした。参加者からは「障害があってもスポーツを楽しめることを知った。」「車いすに乗ることで、みんな一緒にスポーツできることが素敵だと思った。」等の声が聞かれた。

③「フラッグフットボール」では守備と攻撃に分かれてゲームを進め、作戦を立ててゲームする楽しさを味わった。「点を取ったときにチームの友達がとっても喜んでくれて嬉しかった。」「作戦を立てる良さがよく分かった。」等の声が聞かれた。

④「ピククルボール」ではサーブやレシーブを練習し、ルールを学びながらラリーを楽しんだ。「将来はピククルボールの選手になりたい。」「初めてのスポーツに挑戦できて良かった。」等の声が聞かれた。

（2）「ユニフォーム作り」「チア作り」「スポーツ大会」を通してチームワークを高める活動

チームごとにユニフォームとチア作りを行った。「チアにはみんなのいい言葉がたくさん入っていてとてもいい。」「チームで心を合わせて勝つことができた。」「4位だったけれど、自分の限界まで頑張ることができた。」などの声が聞かれた。



6 事業の成果と課題

（1）成果

・「挑戦と団結を学んだ。苦手意識のあったスポーツを楽しめた。」「2日間の活動を通してみんなと自分自身の成長を大きく感じた。」「どんな人ともスポーツは楽しくプレイできること、チーム一丸となって勝った時はとてもうれしいことが分かった。」「何事にもチャレンジすること、失敗してもまた頑張ることなど、これから楽しく生活するための方法に気がついた。」といった感想から、新しいことにチャレンジし、自分自身の新たな気持ちや価値観に気づくことができた参加者が多かったことが伺える。

（2）課題

・実施後アンケートから、「福島のよさ」を意識しにくい活動回であったことが伺える。福島県で活躍しているオリンピックやパラリンピックの選手の話、震災からの復興との関わり等、今回のテーマに沿って福島県について考えるきっかけとなる話題を意図的に仕組むことができるとよかった。

「第10期福島こども未来塾」第5回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年9月7日（土）～8日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

35名（小学生27名、中学生8名）

5 主な活動内容

(1) 「チームフラッグ作り」や「チームでの表現活動」を通してチームワークを高める活動

チームごとにアイデアを出し合っけてチームフラッグ作りを行った。その後 HEART Global のキャストと共にチームでの表現活動を行った。「最初は不安だったけれど、みんなが教えてくれてうれしかった。」「みんなのことがよく分かって距離が縮まった。」などの声が聞かれた。



(2) ダンスと合唱の練習を通して表現する楽しさを知る活動

苦手なことにもチャレンジしてみようとする「Yes And」の考え方をキャストの方から学んだ。その後、指導してもらったキャストを自分で選び、それぞれダンスや合唱の指導を受けた。「最初はダンスに苦手意識をもっていたが、やってみたら楽しかった。」「最初はできるわけがないと思ったけれど、実際にやってみたら意外とできると思った。」などの声が聞かれた。



(3) 練習したことを観客の前で表現する活動

練習したダンスや合唱を再度練習するとともに、新たなダンスを覚えたり、通しでのリハーサルを行ったりした。2日目の最後には保護者を招いての「みんなのショー」を行った。塾生からは「親の前で緊張したけれど、とても楽しくできた。」「ダンスは思ったより楽しく、拍手喝采を受けてうれしかった。」「人をダンスで元気づけるのがすばらしいと思った。」などの声が聞かれ、参観した保護者からは「子どもたちのきらきらした表情がとてもすてきで夢のような時間だった。」などの声が聞かれた。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

「苦手なことにも積極的にチャレンジしたい。」「この仲間に会えて本当によかったなと思った。」「自然と仲間と掛け声を合わせたり踊ったりできた。」「たくさんの人と話したり踊ったりいろいろなことができて楽しかった。」といったアンケートの感想から、仲間と協力して物事に挑戦することで、自分自身の新たな可能性を発見したり、協力することの喜びに気づいたりすることができた参加者が多かったことが伺える。

(2) 課題

思春期の参加者も多いので、ダンスの前に体を動かす活動や声を出す活動を取り入れることで、なかなかじめない参加者やダンスや歌に抵抗がある参加者もさらに意欲をさらに高めることができると考えられる。

「第10期福島こども未来塾」第6回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年9月22日（日）～23日（月）

3 会場

ブリティッシュヒルズ（〒962-0622 福島県岩瀬郡天栄村田良尾芝草1-8）

4 参加者

37名（小学生29名、中学生8名）

5 主な活動内容

(1) 「Survival English」(英会話レッスン) と「Explore」(オリエンテーリング) による英語に慣れ親しむ活動

ブリティッシュヒルズで役立つ英会話レッスンや、様々な問題を解きながら館内外を歩くオリエンテーリング活動に取り組んだ。「いろいろな国の人と交流して二か国語を話せるようになりたい。」「もう少し英語を聞き取れるようになりたい。」「外国の人ともフレンドリーに接して新しい言葉を学べた。」等のアンケート結果から、参加者の英語を学びたいという意欲が高まったことが伺える。



(2) テーブルマナー講座とコースディナーで海外の文化を学ぶ活動

コースディナー時のカトラリーの位置や名前、スープの飲み方や会話の楽しみ方等を学び、学んだことを生かして実際にコースディナーをいただいた。「テーブルマナー講座やコースディナーを通して、外国の食事への関心を高めることができた。」「学んだテーブルマナーを忘れずに礼儀正しい人になりたい。」等のアンケートの感想から、普段の食事と違うテーブルマナーの文化を知ることによって、外国の文化や食事へ興味・関心を広めることができたことが伺える。



(3) 「British sports」「cooking scones」の体験を通して英語を学ぶ活動

イギリス発祥の球技「cricket」について英語での説明を聞き取りながら、ルールや道具の名称を理解してゲームを楽しんだ。「cooking scones」では英語で表現された材料の名称や分量、調理方法を聞き取ってスコーン作りに取り組んだ。「外国の文化に触れることはとても楽しいと思った。」「英語を理解できるか不安だったけれど、意外と分かることが多くて楽しかった。」などの感想から、体験的に英語を学ぶことで楽しさや達成感を実感できた参加者が多かったことが伺える。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

「言葉が伝わらなくてもコミュニケーションがとれることが分かった。」「これから英語の学習を頑張って将来の夢につなげたい。」「英語が楽しいと思えた。本当に海外に留学してみたい。」といったアンケートの感想や満足度調査から、多くの参加者が英語学習や海外の文化への興味・関心を広め、意欲を高めることができたことが伺える。本場イギリスの街並みや調度品が広がる環境のもと、食事や文化、スポーツや調理体験といった幅広いテーマの活動を行うことができたことが効果的だった。

(2) 課題

一斉レッスンの際は内容を難しく感じている参加者が見られたが、個別に実施したオリエンテーリング活動では、自分のレベルに応じて意欲的に取り組む姿が多く見られた。より多くの参加者が満足感を高められるよう、個のレベルに応じたレッスンを多く取り入れると効果的だと思われる。

「第10期福島子ども未来塾」第7回

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和6年10月5日（土）～6日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

杉妻会館（福島県福島市杉妻町 3-45）

4 参加者

1日目：32名（小学生25名、中学生7名） 2日目：31名（小学生24名、中学生7名）

5 主な活動内容

(1) 未来塾報告会に向けて自分の考えや思いをまとめる活動

これまでの活動を振り返り、学んだことや感じたことを漢字一文字で表した。「未来塾で勇気を学んだので『勇』、福島県の食のすばらしさを伝えたいから『食』、福島県にはたくさんの福（よいところ）があることに気づいたから『福』、災害に負けず今まで歩んできた福島県や自分自身も成長に向かって歩んだ未来塾なので『歩』」のように、選んだ言葉を発表ボードに大きく記し、その言葉をもとに報告会で発表する内容をまとめた。参加者はOB・OGから当時のまとめ方などを教えてもらい、参考にしながら活動を行った。



(2) 未来塾記念品作成をとおしてOB・OGと親睦を深める活動

未来塾記念品として、会津地方の伝統工芸である「赤べこ」の絵付けを行った。絵付けをとおしてOB・OGとの会話もはずみ、参加者からは「今度はOB・OGで未来塾に参加したい。」「前はどんな活動をしていたのか分かってよかった。」「かわいらしい記念品が作れて嬉しい。」等の声が聞かれた。



(3) 活動報告発表～クロージングセレモニー～

クロージングセレモニーに先立って保護者向けに発表を行った。その後、クロージングセレモニーでは代表7名が未来塾の活動をとおして感じたことや学んだことを堂々と発表した。「緊張したけれどしっかり自分の言葉で伝えられた。」「たくさんの経験をとおして、成長した自分を実感している。」等の言葉から、参加者が達成感をもって活動を終わることができたことが伺える。また、参加者代表が立派な態度で修了証書を受け取り、晴れやかな塾生の表情とともに、一緒に歩んできた仲間との別れを惜しむ姿や再会を約束する姿が見られた。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

「震災の怖さと復興への取り組みを未来へ伝えていこうと思った。」「未来塾に来る前よりも何事にも積極的に取り組めるようになった。」「福島の良いところがたくさん分かり、もっと知りたいと思うようになった。」といったアンケートの感想から、多くの参加者が福島県の未来を考え、失敗を恐れずに行動しようとする気持ちを高めることができたことが伺える。

(2) 課題

参加者とOB・OGが福島県のことを考えるきっかけとなるような体験を共にできると、より未来塾の目的に近づくことができるのではないかと考える。

5 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業

○事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、福島県内の多くの子どもたちに体験活動の楽しさを提供するとともに、保護者に体験活動の必要性や重要性を発信する。

(1) スマイルばんせい（詳細はP. 13参照）

(2) 地域イベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動

① 事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、地域のイベントにおいて出展を行い、体験活動の重要性について広く発信をしていく。

② 期日 イベント名【場所・人数】

- ・令和6年7月15日（月）学びいな夏祭り
【猪苗代町運動公園 162人】
- ・令和6年7月29日（土）磐梯まつり
【猪苗代町運動公園 208人】



磐梯まつり（R6.7.20）

③ 成果

地域の各種イベントにおいて、体験の普及啓発活動を実施した。子どもたちや保護者、地域の方々に体験の機会を提供したことにより、あらためて体験活動の楽しさや重要性を実感していただくとともに、地域力向上の推進に努めることができた。

(3) 子どもゆめ基金説明会

① 事業目的

より多くの方々や青少年団体などに、子どもゆめ基金の趣旨を理解していただくとともに、申請の流れや申請書の書き方などの実務について知識を深めていただく。

② 期日：令和6年6月3日（月） オンラインでの開催

(4) その他（猪苗代湖の自然を守る会との連携）

① ヒシ刈りボランティアとしての協力【計6回】

- ・令和6年8月 2日（金）
- ・令和6年8月 9日（金）
- ・令和6年8月23日（金）
- ・令和6年8月30日（金）
- ・令和6年9月 6日（金）
- ・令和6年9月13日（金）



ヒシ刈り（R6.9.13）

② 「猪苗代湖の自然を守る会」研修会の参加

- ・令和6年11月25日（月） 発電所、浄水場、堰分水工等の見学

IV 令和6年度 研修支援等

1 総利用者数（令和7年3月4日現在）

宿泊利用団体数	272 団体	宿泊総利用者数	43,808 人
日帰り利用団体数	148 団体	日帰り総利用者数	4,285 人
合 計	420 団体	合 計	47,693 人

2 月別利用者数（令和7年3月4日現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
宿 泊	4,293	4,718	4,069	4,227	7,980	6,947	2,138	787	0	3,682	3,369	1,198
日帰り	369	787	380	577	556	379	745	91	16	324	39	22
合 計	4,662	5,505	4,449	4,804	8,536	7,326	2,883	878	16	4,006	3,408	1,220

3 宿泊団体種別利用状況（令和7年3月4日現在）

種別	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	大学等	特別支援 学校	青少年 団体等	官公庁・ 企業等	その他
割合	1.9%	10.2%	33.0%	9.7%	2.9%	0.1%	40.0%	2.2%	0.0%

4 都道府県別利用状況（令和7年3月4日現在）

種別	福島県	茨城県	宮城県	埼玉県	東京都	千葉県	新潟県	その他
割合	28.5%	15.3%	4.7%	16.8%	17.3%	7.7%	5.0%	4.8%

V 施設概要

1 職員組織

○所長	小野保
○次長	葛岡丈治
○企画指導専門職	
主任企画指導専門職	江川洋介
企画指導専門職	菊地諒介
企画指導専門職	坂本さやか
企画指導専門職	上野聡
○事業推進係	
企画指導専門職兼事業推進係長	大島貴浩
事業推進係主任	飯野智
事業推進係員	狩谷順子
事業推進係員	熊倉美幸
事務補佐員	小泉舞
○総務係	
主幹兼総務係長	高橋幸子
総務係員	横山太樹
○管理係	
主幹兼管理係長	石神晋哉
主幹兼施設整備専門職	穴澤弘輝
管理係主任	丸岡奏
技能補佐員	棚木一雄

(令和7年3月11日現在)

2 国立磐梯青少年交流の家のあゆみ

昭和 39. 12. 18	国立第 3 番目の青年の家設置場所を福島県耶麻郡猪苗代町に決定
41. 1. 7	第 1 期工事【本館・講堂棟・宿泊棟西側】竣工(宿泊定員 200 名)
41. 4. 4	所歌「若人の道」制定
5. 22	開所式挙行
42. 3. 30	第 2 期工事【体育館、宿泊棟東側】竣工(宿泊定員 400 名、体育館完成)
12. 10	キャンプ管理棟、総合グラウンド竣工
43. 8. 2	皇太子殿下同妃殿下御来所
44. 3. 20	第 3 期工事竣工(キャンプ場)
45. 5. 19	天皇皇后両陛下御来所、坂田文部大臣来所
8. 2	弓道場竣工
46. 3. 22	武道館竣工
5. 22	開所 5 周年記念式典挙行
47. 5. 22	門標完成
7. 27	三笠宮寛仁親王殿下御来所
51. 5. 22	開所 10 周年記念式典挙行
52. 9. 7	延宿泊利用者 100 万人突破記念式挙行
53. 3. 28	談話・喫茶コーナー設置
54. 3. 31	野外研修センター竣工
56. 5. 31	開所 15 周年記念事業(施設の一般開放)実施
57. 5. 30	猪苗代フェスティバル実施(以後平成 19 年まで毎年実施)
58. 4. 6	野口英世博士記念コーナー設置
61. 6. 7	開所 20 周年記念式典挙行
平成元. 8. 3	延宿泊利用者 200 万人達成記念式挙行
5. 12. 17	キャンプ場整備完了
7. 3. 20	食堂棟新営工事竣工
8. 9. 6 ～ 8	開所 30 周年記念事業挙行 (磐梯博覧会 '96～学術・文化、スポーツの祭典～)実施
10. 18	開所 30 周年記念式典挙行
9. 3. 14	野外炊飯棟新営、武道館全面改修工事竣工
11. 1. 22	休憩所、野外ステージ竣工
12. 3. 31	環境教育体験館・浴室工事完了
13. 3. 31	バリアフリー化工事(エレベーター、浴室)完了
13. 4. 1	独立行政法人国立青年の家本部が国立中央青年の家敷地内に設置され、それに伴い、独立行政法人 国立青年の家国立磐梯青年の家に移行
15. 12. 19	談話棟耐震改修工事完了
17. 1. 7	宿泊棟(西側)耐震改修工事完了
17. 12. 28	食堂厨房ドライシステム化工事完了

18. 4. 1	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター、独立行政法人国立青年の家、独立行政法人国立少年自然の家が統合して独立行政法人国立青少年教育振興機構が発足し、それに伴い、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立磐梯青少年交流の家に移行
18. 5.22	開所 40 周年
19. 1.10	宿泊棟(東側)・講師棟耐震改修工事完了
20. 4. 1	課制(事業推進課、事業支援課)より次長制へ移行
22. 3.19	講堂棟耐震改修工事完了
22. 3.30	本館耐震改修工事完了
23. 1.31	屋外給排水管他改修工事完了
23. 3.13 ～ 8.31	福島県災害対策本部の要請により東日本大震災の避難指定施設として避難者受入れ(最大 403 名/日、延べ 22,626 名)
24.11.29	災害復旧工事完了
28. 3.30	体育館 LED 照明取り換え工事完了 食堂棟天井落下防止対策工事完了
28. 5. 8	開所 50 周年記念式典・祝賀会举行
28. 7.28	屋外ステージ ボルダリングホール設置工事完了
28.10.31	自然観察室床改修工事完了
28.11. 7	こどもの森 ツリーデッキ設置工事完了
28. 1.17	こどもの森 東屋設置工事完了
29. 1.27	食堂棟テラス改修工事完了
29. 3.14	武道館 LED 照明取り換え工事完了
29.11.13	食堂棟屋根修繕完了
29.12. 4	講堂棟シャッター修繕完了
30. 3.20	防火設備改修工事完了
30. 6.26	環境教育体験館 天体観測ドーム他改修工事完了
30.11.30	本館・宿泊棟・体育館・環境教育体験館 エレベータ改修工事完了
令和元. 6. 3	オストメイト及びベビーシート新設工事完了
元. 6.20	多言語案内看板設置新設工事完了
元. 7.31	本館照明・第 3 営火場コンセント・野球場コンセント新設工事完了
元. 8. 9	食堂棟ベランダスロープ工事完了
元. 8.31	天体プロジェクションシステム新設工事完了
2. 2.14	第 5・6 研修室エアコン設置工事完了
3. 8.18	国土強靱化計画の一環により地域防災保管拠点施設として、令和 2 年度補正予算でライフラインの強靱化改修工事(ライフライン改修工事、受水槽設置工事、宿舍棟エアコン設置及び宿舍棟等トイレ洋式化工事完了、講堂棟ボイラー更新工事完了、非常用発電機更新工事完了、電気設備改修工事)開始
3.12. 3	受水槽設置工事完了(令和 4 年 11 月運用開始)
4. 1.20	ライフライン改修(宿舍棟屋上防水改修)工事完了
4. 1.20	宿舍棟エアコン設置及び宿舍棟等トイレ洋式化工事完了
4. 1.31	講堂棟ボイラー更新工事完了
4. 2.25	非常用発電機更新工事完了

4. 3. 4	電気設備改修工事完了
4. 3. 4	国土強靱化計画の一環による地域防災保管拠点施設としてのライフライン強靱化改修工事完了
4. 3.18	自動ドア防護柵設置工事完了
6. 6.12	講師室エアコン設置工事完了

ご協賛・ご協力いただいた皆様

株式会社社会津防災設備センター	会津リース株式会社
秋山ユアビス建設株式会社	安積汽工有限会社
アストロ光学工業株式会社	有限会社猪苗代工務店
株式会社グリーンセス	株式会社小山商会 郡山営業所
株式会社セーフ観光	株式会社 東北セイワ
日章産業株式会社	ハイテックサービス株式会社
福島ノーミ株式会社	二葉印刷有限会社
プリマックス株式会社社会津営業所	フルテック株式会社 会津営業所
有限会社松江	松原キャンプ場
株式会社ミツワ	有限会社森山オートクリニック
ハッ橋設備株式会社	株式会社山元工業所
株式会社ヨークベニマル猪苗代店	渡部産業株式会社
渡部電気工業株式会社	(順不同・敬称略)

ご協賛いただきまして、誠にありがとうございます。

